

金子 達(かねこ とおる)先生のプロフィール

- 勤務先 金子耳鼻咽喉科クリニック
- 経歴 1987年：昭和大学大学院 耳鼻咽喉科学卒業、太田熱海病院勤務
1998年：金子耳鼻咽喉科医院副院長、昭和大学兼任講師
2009年：宇都宮市医師会理事(感染症・新型インフルエンザ対策、医業経営、地域医療、災害・防災対策、宇都宮市医師会看護学校副教頭)
- 専門 耳鼻咽喉科(聴覚障害・難聴・耳鳴・めまい、その他耳鼻科一般)、アレルギー科(アレルギー性鼻炎、喘息、その他アレルギー一般)、漢方科(耳鼻咽喉科を中心とした漢方一般)、感染症一般



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

医者になって一年目にアレルギー性鼻炎で、小青竜湯が非常に有効な症例を経験してからでした。私が入局した当時の昭和大学耳鼻咽喉科教授は故岡本途也先生で、東洋医学に対して理解を示していて、後の日本耳鼻咽喉科学会理事長までなされた先生でした。

東洋医学の勉強も鍼灸の昭和大学病院の先生である久住武先生にご指導いただきました。鍼灸との共同研究も数多くしました。今でも、岡本教授と話した耳と腎虚の話を覚えています。

腎毒性のある薬は耳毒性のあるものが多く、耳疾患(難聴や耳鳴)を腎虚の一つとして考えるのも現代医学的に合っているのではないかとする考えです。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

西洋医学で不得意な耳鼻咽喉科領域の疾患は沢山あります。前記した耳の疾患(難聴・耳鳴)は、突発性難聴の初期や進行性難聴の急性増悪時で西洋医学的には、副腎皮質ステロイドホルモンを使用しますが、維持や軽度の変化では漢方薬以外に使用できる薬剤はATP顆粒ぐらいです。

めまいも同様で内服可能なら漢方が優先されます。また副鼻腔炎や鼻炎の症状をとるのも漢方薬の得意分野です。抗ヒスタミン薬の眠気を増やさず、作用増強する麻黄剤などや鼻閉に対しても非常に有効な手段です。

また、耳鼻科領域で各種疾患・症状の原因として、最近注目を浴びている逆流性食道炎にも六君子湯を初めとする漢方治療が非常に重要な治療法です。



◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

患者さん内訳で感染症や子供が多い為、西洋薬の方が、第一選択としては多いと思います。

疾患により漢方が優先される疾患では漢方の使用の方が多いと思います。耳鳴・難聴・めまい、鼻炎の症状悪化例、咽喉頭異常感症などは漢方が第一選択であることが多いです。

また西洋薬と漢方薬の併用療法も数多く、麻黄剤の興奮作用を利用した抗ヒスタミン薬との併用、作用増強と眠気防止に役立つ治療も花粉症の増悪期などに数多く使用しています。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方とか西洋薬とか、とやかく言わずに同等に差別されることがなく使用されることがよいと思います。漢方の基本のマニュアルを若い医師に教育する必要があります。難しいことは要らないのです。必要ならその後に勉強すればよいことです。そして保険適応はもっと充実させるべきだと思います。剤型の工夫も必要でしょう

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

東京の大学で講師時代には、すでに宇都宮に住んでいたもので、新幹線通勤が長かったのですが、芍薬甘草湯はいつも持っていました。足がつることが多かったからです。非常によく効きます。

葛根湯や葛根湯加川芎辛夷などはいつでも持っていて、風邪かなと思ったらすぐ飲みます。このあたりは常備薬です。



◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

難しく考えず、まずは使ってみること。基本は多少勉強することが必要があります。本気になったら専門医の勉強をしましょう。

また、相談できる医師を周囲に見つけることが重要です。「必ず効くでは」なく、効かないときこそよく考えてみると良いです。それが経験となります。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方なんて効かないと思う人は、よほど運が悪い人です。ちゃんとした処方で自分に合えば非常によく効きます。

西洋薬で効果の出にくい疾患でも効くことが多いです。特に私が専門としている耳鼻科でも難聴、耳鳴、めまいなどは漢方なくして私の治療は考えられません。また他で治らない患者さんが軽快しているのを日常的にみています。

◆座右の銘、お好きな言葉がありましたら教えてください

- ・分度推穰 (ぶんどすいじょう・二宮尊徳の考えで自分の生き方を計画的に無理をせず余裕を持ち、人に対して分け与える余裕を持つこと)。
- ・積小為大 (せきしょういだい・小さいことの積み重ねが大きなことなす事につながり、小事をおろそかにしてはならないこと)。
- ・心田開発 (しんでんかいはつ・何事も本人のやる気が重要で、それを起こさせる必要があること)。

◆その他何かご意見がありましたら教えてください

本当に漢方や”分度推穰”などを分かる人が政治家であれば、その人が中心となることで、日本の漢方は、進歩していくのではないのでしょうか。



注意:先生へのインタビューは、当会が2010年9月に行った内容です。